

北海道SDGs推進懇談会

第2回

◆参考資料◆

RCE北海道道央圏が果たしてきた
SDGsに関するプラットフォーム機能

RCE北海道道央圏協議会

事務局長 有坂美紀

Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development



RCEs around the world

There are 165 acknowledged RCEs as of August 2018.

www.rcenetwork.org



RCE : Regional Center of Expertise on ESD
 持続可能な開発のための教育に関する専門性のある地域拠点
 (国連大学が認定)

For more information
rceservicecentre@unu.edu
 The Global RCE Service Centre
 Education for Sustainable Development Programme
 United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

世界165カ所 (2018年8月現在、うち日本 7カ所)

国連大学認定 RCE北海道道央圏の設立

15年歳末 (ま)と

貧困の解消や地球温暖化防止、生物多様性の保全などを掲げる国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を、道内の課題に引きつけて考える動きが加速している。その地声として本や環境NPO、企業関係者らが設立した団体が今月、国連大学（東京）の認定を受けた。国内7カ所目、道内では初めて、目標達成に向け、道内の豊かな自然の保全も、アイヌ民族の権利保護などに取り組む。

自然保全、アイヌ民族研究探る

SDGsは2016年から30年までの世界共通の目標として、9月の国連総会で採択された。持続可能な社会づくりを掲げ、17項目の169目標を掲げる。具体的には貧困や格差解消、女性差別やジェンダーの虐待をなくすこと、すべての人に教育の機会を平等に提供すること、地球温暖化の防止などを盛り込んでいる。国連大学の認定を受けた団体は「地域教育拠点 R

世界の課題 道内から解決

国連大学、北大などの設立団体を認定

SDGsの17項目

1. 世界中で貧困を終わらせる
2. 飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業を推進する
3. すべての人の健康な生活を確保し、福祉を推進する
4. すべての人に公平で質の高い教育と生涯学習の機会を提供する
5. 男女平等を達成し、女性と女児の権利を確保する
6. すべての人に持続可能な水の使用と衛生を保障する
7. すべての人に持続可能なエネルギーを保障する
8. 持続可能な成長を推進し、すべての人が人間らしく働きたいの仕事につけるようにする
9. 持続可能なインフラと産業化を促し、技術革新を拡大させる
10. 国内および国家間の格差を是正する
11. 都市と人の生活を安全で強じんして持続可能にする
12. 生産と消費を持続可能なあり方にするよう促す
13. 気候変動とその影響に対して緊急に取り組む
14. 海や海洋資源を保全し、持続可能な利用を促す
15. 地球上の生態系を保護し、持続可能な利用を促し、砂漠化や土地の劣化、生物多様性の喪失を止める
16. 平和で包摂的な社会を推進し、すべての人が司法を利用できるようにする
17. 持続可能な開発への地球規模の連携を強化する



札幌市内で13日に開かれたSDGsの学習会。環境や教育に関心のある約50人が参加した。

民族の権利保護などに取り組む方針で、年明けから活動を本格化させる。石狩、空知、後志、胆振、日高の各管内を活動地域とし、自治体や農協・漁協、アイヌ民族団体、福祉団体などとも連携していきたい考えだ。

「世界の課題と身近な地域の課題は根っこでつながっている」。RCE道央圏のメンバーらが今月13日に札幌市内で開いた学習会で、SDGsの策定にかかわった日本NPOセンター（東京）の今田克司常務理事はそう強調した。

RCEは、SDGsの目標達成に向けた地域の活動を束ねる役割を担い、今年11月時点で世界に136カ所ある。認定されても活動資金の援助はないが、国内外のRCEと情報交換できる。例えばアイヌ民族の研究者は先住民族の問題にかかわる各国のRCEと直接意見が交わされる。これまでに設立された国内のRCEでは「仙台広域圏が東日本大震災からの復興や防災教育、岡山が人権や過疎の問題に取り組むなど、それぞれ特色がある。RCE道央圏の副代表で国連大学への申請書の英訳を担当した北大大学院環境科学院の山中康裕教授は「地域課題の解決だけでなく、自然と共生し暮らし道央地域の魅力や世界に発信する活動にも力を入れたい」と話している。

世界の課題 道内から解決
自然保全、アイヌ民族研究探る

本文より
「RCEは、
SDGsの目標達成に向けた
地域の活動を束ねる役割を担う」

北海道新聞朝刊2015年12月24日（木）付け

SDGs達成におけるRCEの役割

◆SDGs達成に寄与すること

国連大学が策定したRCEコミュニティのための2016～2020年のロードマップでは“RCEがSDGs 達成に寄与する”としている。

(UNU-IAS Roadmap for the RCE Community 2016-2020 より抜粋)

◆SDGsの達成に向けた**知見の共有**や**協働の促進**

「SDGsの達成に向けたRCE第一回世界会議」の開催

主催：国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

RCE岡山、岡山大学

開催日：2017年 12月5日 (火) ～7日 (木)

◆SDGs達成のための**技術と能力開発**

地域の持続可能な開発の課題に取り組む

多様なステークホルダー・パートナーシップとして組織されたRCEsは、

SDGs達成のために必要な技術と能力開発における重要な役割を担っています。

(国連大学HPより抜粋)

RCE 北海道道央圏協議会 会員組織 ～多様なステークホルダーの参画～

<セクター別>

- 高等教育機関／研究機関：4
- 高等学校：1
- NGO/NPO：25
- 民間セクター：6
- 中間支援組織：8
- 行政関連組織（独行など）：3
- 自治体：4



51

<会員組織の主な取組分野>

貧困／一次産業／福祉／保健・医療／教育／ジェンダー平等／再生可能エネルギー
雇用・働きがい／経済／技術イノベーション／地域間の格差是正／先住民族
まちづくり／国際協力・交流／持続可能な生産と消費／気候変動
陸域及び水域の生物多様性保全／パートナーシップ

高等教育機関（４）

酪農学園大学農食環境学群環境共生学類

北海道大学大学院環境科学院

北海道大学大学院教育学研究院

北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科

高等学校（１）

北海道札幌啓成高等学校

NPO／NGO（25）

NPO法人 どさんこ海外保健協力会

江別ユネスコ協会

環境学習フォーラム北海道

NPO法人 EnVision環境保全事務所

NPO法人 ezorock

フェアトレード北海道

一般社団法人 ガールスカウト北海道連盟

一般社団法人 北海道開発技術センター

NPO法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト

北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク

NPO法人 北海道グリーンファンド

北海道希少生物調査会

北海道学校ESD実践研究会

公益財団法人 北海道YMCA

酪農学園大学国際交流サークル SukaRela

NPO法人 八剣山エコケータリング

Orca.org さかまた組

一般社団法人 北海道再生可能エネルギー振興機構

NPO法人 エスニコ

NPO法人 さっぽろ自由学校「遊」

NPO法人 共育フォーラム

ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗

一般社団法人 サステナビリティ・ダイアログ

札幌アイヌ協会

NPO法人 ワークスコープ 北海道事業本部

中間支援組織 (8)

NPO法人 北海道市民環境ネットワーク

公益財団法人 北海道環境財団

一般財団法人 北海道国際交流センター

北海道NGOネットワーク協議会

NPO法人 北海道NPOサポートセンター

公益社団法人 青年海外協力協会

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

一般社団法人 滝川国際交流協会

行政関連機関（3）

環境省 北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）

独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター（札幌）「JICA北海道（札幌）」

北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター

民間セクター（6）

太田明子ビジネス工房

Co. DESIGN

生活協同組合 コープさっぽろ

合同会社 FiveQuestionZ

オフィスマルマ

一般社団法人 北海道中小企業家同友会 札幌支部

地方自治体（4）

札幌市 環境局環境都市推進部

北海道 総合政策部政策局計画推進課

倶知安町

黒松内町

RCE北海道道央圏の専門性 ～これまでの実績から～

北海道のローカル・アジェンダづくり

- ◆実施時期：2016年1月～2017年3月
- ◆テーマ：SDGs北海道の地域目標をつくる
- ◆実施回数：ワークショップ計12回
- ◆冊子発行：SDGs北海道の地域目標をつくろう
(2017年3月27日、A5判48ページ)

先住
民族

生物
多様性

格差

ジェンダー

気候
変動

平和

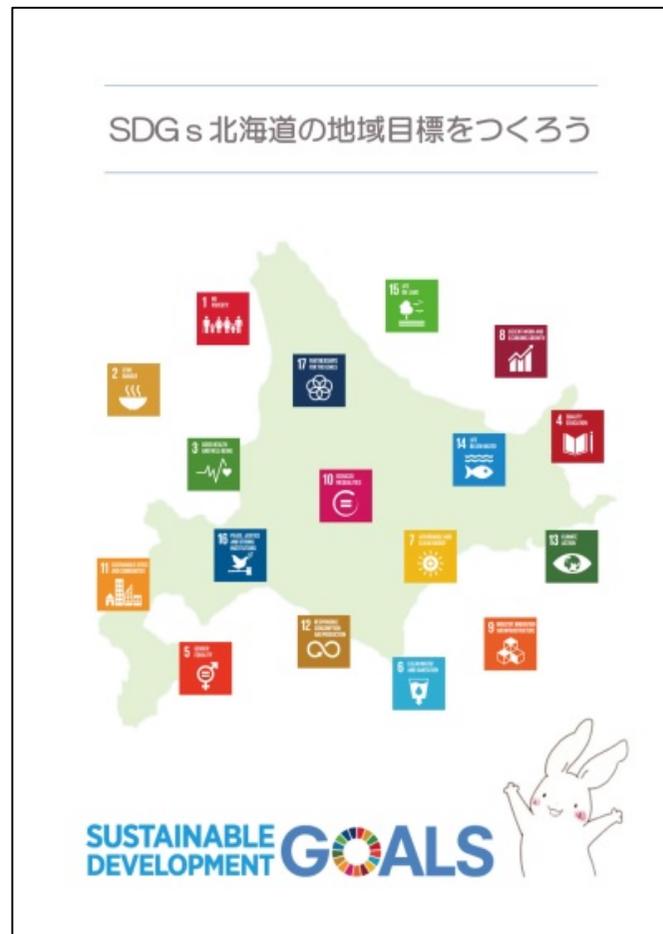
エネルギー

マイノ
リティ

ESD

労働
雇用

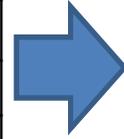
貧困



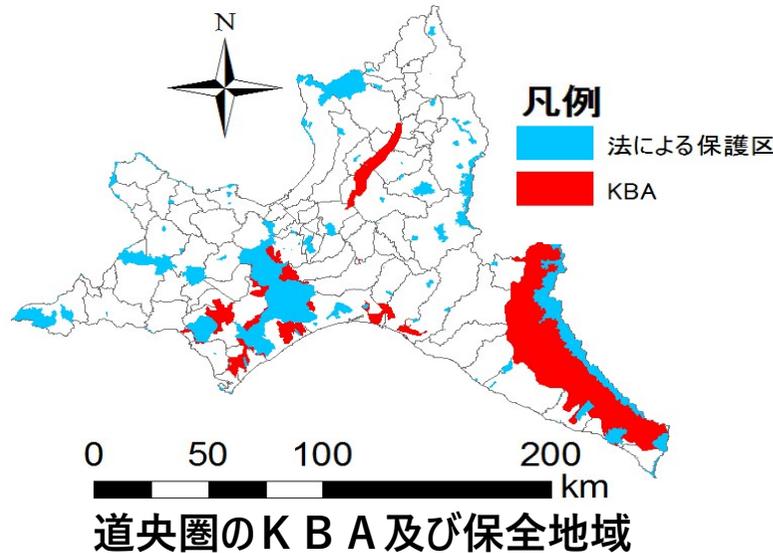
GISを活用したローカルアジェンダの評価指標づくり

自然保護区と絶滅危惧種の生息域の重ね合わせ
(GAP) 分析による生物多様性保全

	SDGsのターゲット
1	陸域生態系サービスの保全、回復、持続可能な利用
2	山地生態系の保全、持続的な 便益の強化
3	絶滅危惧種の保護および絶滅防止対策
4	侵略的外来種の移入防止、駆除の対策を導入
5	生物多様性の価値を、計画策定及び会計に組み込む



道央圏のローカルな目標
道央圏における重要里地、里山5箇所の保全
森林・野生生物生息地のモニタリングと機能評価
道央圏版レッドリストの作成支援 自然保護区と絶滅危惧種の生息域の重ね合わせ(GAP分析)による生物多様性保全
北海道の指定外来種12種の移入防止
森林環境税をはじめとするPESの導入へ向けてた普及啓発



道央の保全地域

- ・鳥獣保護区
- ・国立公園
- ・自然保全地域

12.04%

KBA (Key Biodiversity Area)
の保全地域

- ・生物多様性保全の鍵
- ・危機性
- ・非代替性

32.36%

保護区とのギャップ分析

持続可能な社会づくりのための協働促進

- ★分野横断的に世界的問題と地域問題を融合しやすい
- ★これまでの積み重ねがある
- ★共通目標をハッキリさせやすい



RCE 北海道道央圏協議会が呼びかけ

労働環境

生産と消費

フェアトレードタウンさっぽろ戦略会議
発足

市民団体

教育機関

2018年に札幌市をフェアトレードタウンに！

国際協力

行政

福祉

地元企業

環境保全

道内企業のSDGsに対する認識調査

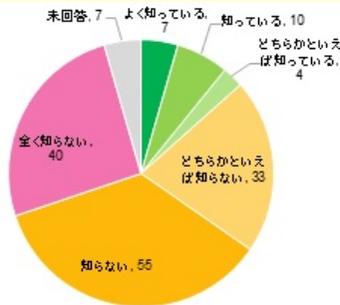
「道内企業のCSRに対する活動や認識」に関するアンケート(抜粋)

実施: 北海道大学環境科学院/RCE北海道道央圏協議会 協力: 北海道環境生活部・札幌市環境局・中小企業家同友会 1432件配布156件回収

道内企業156事業所の13%がSDGsを知っている、
名前ぐらいは知っている70%(全く知らない以外)

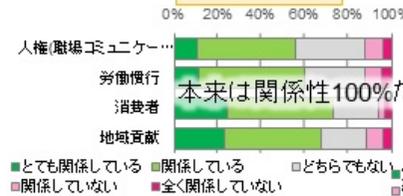
本アンケートは、4つのISO26000の中核主題から、中小企業でも回答しやすいような
具体的な実施項目を設問とした。

SDGsを知っていますか/知っていませんか?



社内的活動(人権・労働慣行)は、社外的活動に比べて、意識実施率は低い。

CSR関連性認識



CSR実施状況



企業理念とCSR方針の明文化



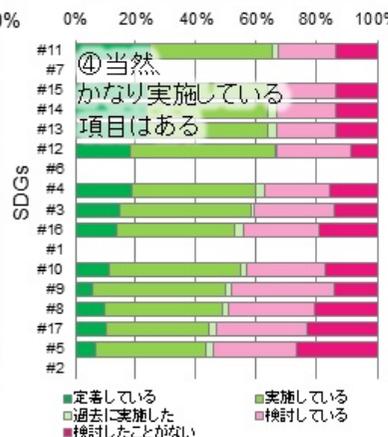
SDGs17項目の自己認識



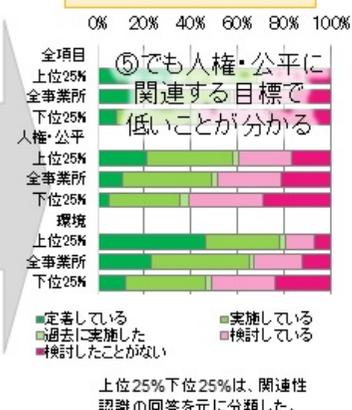
推定したSDGsの関係性認識



推定したSDGsの実施状況



推定したSDGs実施状況



② CSR21項目からSDGs目標に読み替えて推定すると... (#1,2,6,7とは紐付けられなかった)

道央圏の知見・経験を活かした 持続可能な社会づくりを実践する人材の育成 「SDGs教育プログラムづくり」



社会の問題を探求し、人に伝える
高校生×大学生×大学院

世界のRCEとの交流プランを作る
大学院×RCE



国内外との連携



マレーシア・キナバタンガンと酪農大との連携



年一回以上アジア太平洋および世界会議へ参加



NGO-JICA協議会の開催協力と参加

参考：RCE北海道道央圏のビジョン

「北海道」と命名後の激動の歴史と開発を踏まえ、
今後100年にわたり持続可能な地域社会を実現することを目指します

注釈：

本協議会は当初、「北海道の開拓の歴史150年を振り返り、歴史から学ぶとともに、今後の100年を見すえた持続可能な地域社会を実現する」をビジョンに掲げて進み始めました。しかしながら、過去と未来の時間的スケールや「開拓」という言葉が持つ意味を再考すべきという声が多く上がり、改めて意見を交わし、新しいビジョンを作り上げました。

なぜ、命名後の北海道の歴史と開発から学ぼうとするのか。「北海道」と命名されたのは1869年のことです。江戸幕府から明治政府に大きく時代が転換する中、北海道には開拓使が置かれ、急速に様々なものを変えていきました。これまでの過程は、必ずしも持続可能なものばかりではありませんでした。過去の持続不可能な出来事に正面から向き合い、学ぶことで、現在の社会が抱える様々な課題を解決する糸口を見つけることができると考えます。

本協議会は、多様な人々が互いに「教育」し合うことで知的および精神的連帯を社会に築き、自然環境や多様な人々との間に新たな関係を構築することで、今後100年にわたる持続可能な地域社会の実現に寄与していきます。

参考：RCE北海道 道央圏が目指す 100年後の持続可能な社会の特徴

1. 100万都市と共存する自然豊かな環境

- (1) 100万都市と豊かな自然が共存する、国立公園の特長を活かした環境
- (2) 野生動物とほどよい距離感を保つのに十分な緩衝地帯がある環境
- (3) 自然を活かした防災機能をもつ環境
- (4) 身近に自然を感じる空間（水辺、緑の散策路、自転車・馬車専用道等）がある環境
- (5) 自然の価値を知っていて、自然と人がともに暮らすことを最良とする市民が住む環境

2. 人権を尊重し、人の多様性を受け入れる多文化社会

- (1) 立場、出自、信条、性等の別に関わらず、選択できる自由と責任がある社会
- (2) 多様な人々が合意形成を重視する社会
- (3) 歴史的な負の側面も直視し、常に学び合う創造的な社会
- (4) 世界の地域の人々と積極的かつ直接的に交流し、世界の一員であることを認識している社会

3. 資源が循環し、生命と人間性を尊重する経済

- (1) 他の圏域と連携し、道央圏に適した規模の持続可能な経済
- (2) 地球全体をみて、他の地域経済を疲弊させない経済
- (3) 働く人々を幸せにし、地域の人々に尊敬される企業が活躍する経済
- (4) 再生可能エネルギーによるエネルギーが自給自足する経済
- (5) 食料を地産地消する経済
- (6) 道央圏の魅力ある質の高い生産物、サービス、観光などを提供する経済
- (7) 多くの長期滞在・二地域居住者が暮らすことによる道央圏内で資本循環を伴う経済

今後に向けて

- ◆持続可能な開発に関わる課題に取り組むためのプラットフォーム強化
 - ・全道を視野に入れた展開
 - ・グローバルRCEネットワーク等を活用した世界各地との協働
- ◆道庁など道内ステークホルダーとの協働促進



ACKNOWLEDGED BY



有坂美紀

RCE北海道道央圏協議会
HP : <http://rce-hc.org>
email: info@rce-hc.org